

令和6年度認定

計画名	57 沖縄空手会館展示施設を中核とした文化観光拠点計画
-----	-----------------------------

①計画目標の達成状況

目標項目名（単位）	R6			R7			R8			R9			R10		
	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率
空手会館展示施設の来館者数の増加（人）	11,000	7,119	65%	13,500	7,314	54%	15,500								
展示施設の外国人来館者数の増（人）	2,750	3,118	113%	3,375	3,327	99%	3,875								
展示施設の満足度向上（%）	68.7	59.8	87%	70	73.8	105%	71								
レストラン・ショップの売上額増加（千円）	21,091	26,380	125%	21,723	29,777	137%	23,895								
体験プログラム参加者数の増加（人）	600	464	77%	900	694	77%	990								

②計画目標の達成状況に関する分析・評価

（分析） 1:来館者について目標値には届いていないが、令和6年度の来館者数と比較すると102.7%の推移になっている。 2:外国人来館者数もわずかに目標値には達成していないが、令和6年度の外国人来館者数は106.7%の推移になっており、特に「空手の日」に併せて開催した各流派のセミナーに多くの外国人門下生が参加したことから、展示室における外国人来館者数も増加したと考えられる。 3:レストラン・ショップの売上額が増加した理由について、レストランでは「空手そば」以外の新メニューの開発やオードブルの注文受付を開始し、また「沖縄そばじょーぐーグランプリ」などのイベントにも参加したことが予想される。また売店においては、訪日外国人観光客の増加に伴い、沖縄空手に関するTシャツのバリエーション増加や書籍の新規導入、キーホルダーや雑貨類といった空手関連商品のラインナップを拡充しオンライン販売も展開するなど、多様なニーズに対応した販売活動に務めた結果と推察される。 4:体験プログラムについて目標値には届いていないが、令和7年度は旅行会社からの問い合わせ増加に伴い海外からの修学旅行生や団体の受入も多く実施し、（一社）沖縄伝統空手道振興会の協力も得て、参加人数が前年比の149.5%まで増加した。
（評価） 全体として目標値には未達成の項目が過半数であるが、各数値は前年実績を上回る結果となっている。展示施設は令和8年度より本格的に展示施設のリニューアルに向けた取組などを開始することから、今後さらなる利用促進と認知度向上が期待される。引き続き目標達成に向けて各種施策の展開と、利用者の満足度向上に努める。

③計画で取組んだ事業の進捗状況

事業番号	事業名	R6	R7	R8	R9	R10	事業類型ごとの実績額
1－①	常設展示等更新事業 （R7は沖縄空手会館資料研究事業）	－	R7は②-1事業と1つの事業としてまとめて実施した。				3.7百万円
1－②	常設展示等ストーリーづくり事業	－	－				
1－③	夜間早朝等におけるイベント開発事業	－	－				
1－④	沖縄空手体験プログラム等造成事業 （R7は空手理解度促進体験プログラム造成事業）	－	空手体験プログラムで着用する空手道着を購入し、沖縄空手会館への来館者を対象に空手体験・瓦割り体験等のプログラムを実施した。				
2－①	沖縄空手デジタルアーカイブ事業 （R7はデジタルアーカイブ化推進事業）	－	沖縄空手会館収蔵の資料のうち1,043点分の資料台帳を作成し、併せてデジタル化のうえサイト上で公開した。				6.5百万円
2－②	多言語展示ガイド養成事業	－	－				
2－③	沖縄空手展示解説多言語化事業	－	－				
2－④	多言語音声ガイドンス検討事業	－	－				
3－①	展示施設巡回バス利用促進事業	－	－				－
3－②	自転車等利用促進事業	－	－				
4－①	レストランメニュー開発事業	－	－				－
4－②	ミュージアムショップグッズ開発事業	－	－				
5－①	ホームページの多言語改修事業	－	－				－
5－②	展示施設広報強化事業	－	－				
6－①	常設展示パネル等設置工事事業	－	－				2.0百万円
6－②	屋外施設への屋根付整備事業	－	－				
6－③	案内看板設置事業	－	－				
6－④	多言語音声ガイドンス及びWi-Fi整備事業 （R7は展示施設多言語音声ガイド等更新事業）	－	沖縄空手会館資料室（常設展）の解説文を対象に、日・英・仏・日・中の5言語での多言語音声ガイドを整備した。				
各年度ごとの実績額→		－	12.2百万円				12.2百万円

④事業の進捗状況に関する分析・評価

本計画は令和6年度から令和１０年度までの５年計画で認定を受けているが、計画認定が令和６年12月であったことから、実質的な事業の走り出しは令和7年度からとなった。 なお、令和7年度に実施した事業の進捗状況に関する分析・評価は以下のとおり。
（分析） ・事業の完了時期が年度末となったことから、全ての評価指標について目標を達成することができなかった。 ・「沖縄空手会館デジタルアーカイブ」について、事業の完了時期が遅れたに関わらず、事業目標として掲げていた3,000件に近い2,783件のアクセス数を計上した。また運用開始後の展示施設アンケートにおいてデジタルアーカイブの満足度は５段階評価中でいずれも好意的な評価であった。
（評価） ・事業は計画どおり実施したものの、事業着手日が遅れ、完了時期が実施期間のぎりぎりとなったことから、次年度（令和8年度）は事業着手日を早める必要がある。 ・一方で、デジタルアーカイブなど積極的な利用が見られる機能もあり、沖縄空手会館利用者のニーズをある程度理解することができた。

⑤拠点施設の要件に関する取組状況

文化観光拠点施設名	要件	沖縄空手会館
・文化資源の魅力に関する情報を適切に活用した解説・紹介		—
・情報通信技術の活用を考慮した適切な方法を用いた解説・紹介		沖縄空手会館で収蔵する博物館資料はその全てを展示施設で一般公開できていなかったことから、令和7年度に本事業を活用し「沖縄空手会館デジタルアーカイブ」を構築し、一般公開できていなかった資料も多くの人々に閲覧してもらえる体制を整えた。
・外国人観光旅客の来訪の状況に応じて、適切に外国語を用いた解説・紹介		沖縄空手会館は来館者数の約4割がインバウンド層であることから多言語音声ガイドを平成29年度より整備していたが、経年劣化等で使用できなくなっていたことから、令和7年度に本事業を活用し、来館者個人の携帯端末を用いた新たな多言語音声ガイドシステムを構築した。
・文化観光の推進に関する多様な関係者との連携体制の構築		沖縄空手会館は令和2年度に博物館法に基づく博物館相当施設として指定されたことから、同年に沖縄県博物館協会に加盟し、博物館施設としての連携構築に努めてきた。令和7年度には展示リニューアルや多言語化、デジタル化等の文化観光の推進に係る連携として、所在地である豊見城市のほか、空手関係団体や周辺施設管理者等との意見交換や連携強化に努めた。
・文化観光の推進に関する各種データの収集・整理・分析		—
・文化観光の推進に関する事業の方針の策定及びK P Iの設定・PDCAサイクルの確立		沖縄県空手振興課では、空手の保存・継承・発展を図る取組を戦略的に行うため、平成30年3月に沖縄空手振興ビジョンを策定するとともに、令和元年3月に第1期沖縄空手振興ビジョンロードマップ、令和5年3月に第2期沖縄空手振興ビジョンロードマップを策定した。沖縄空手会館の観光拠点形成についても、同ビジョン及びロードマップに位置付けている。またロードマップの進捗管理についてはPDCAサイクルを確立し、毎年、進捗確認や成果指標達成状況の検証等を行っている。

⑥観光関係者（DMOなど）からの評価

評価者	評価内容
沖縄JTＢ株式会社	・観光における着地型のコンテンツとしての魅力が向上することは望ましく、多言語対応など来館者の満足度向上に寄与する取組を進められているかと考える。 ・観光コンテンツとしての空手は、国内観光客よりもインバウンド観光客に対して親和性が高いと感じているが、空手会館の至近には工芸の杜もあり、工芸の杜を含めた文化コンテンツとしての魅力度は高いと感じている。 ・今後は、BtoCだけでなくBtoBを含めたプロモーションを展開し、まずは着地型のコンテンツとしての認知を向上させたい。そのうえで、実際の来館を促すような行動変容を目指すプロモーションを実施し、コンテンツの魅力向上とプロモーションを両輪で進めていくことを期待する。
一般社団法人沖縄観光コンベンションビューロー	・文化観光拠点として沖縄空手会館が果たすべき役割を認識し計画している点は大きく評価できる。 ・設定した目的に対し未達の項目もあるが、まだ取り組めていない計画もあるので、今後の伸びしろに期待できる。 ・立案した計画に対して、誰が主体的にその事業を推進するのか、体制と役割と責任を明確にするべき。 ・施設は、文化観光拠点のみならず、地域交流や教育施設としての側面もあるので、「世界から選ばれる持続可能な観光地形成」を目指す沖縄県の大きな方針のもと、多角的な視座を持って施設の活用方法について可能性を検討することに期待する。

⑦今後の改善の方向性

計画の各目標について、あらかじめ設定していた目標値には達成できていない項目も多いものの、事業における取組の成果や自主的な取組の成果から、実績値としてはいずれも昨年度（令和6年度）から増加する結果となっている。今年度は琉球王国という独自の歴史・文化的背景を土壌に育まれてきた沖縄発祥の文化である「沖縄空手」を、県内のみならず国内外多くの人々へその魅力を発信し、その中核である沖縄空手会館への集客を図るため、今年度（令和8年度）においては展示施設のリニューアルの実施や周遊プログラムの作成、デジタルアーカイブ等の内容充実による収蔵資料の利便性向上等に取り組む。
--